

青梅市文化財ニュース

第403号

令和3年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

岩淵の岩井堂観音

岩井堂観音は、青梅市域の北東端に位置する富岡一丁目と飯能市岩淵の境界付近で、岩淵側に位置し、都県境から東方の岩淵側へ50～60m進んだ場所に祀られている。

付近の地形は急峻で、これは付近の地質がすべてチャートと称される、侵食に強い硬い地質である。都道（県道）は急斜面の中腹を通り、成木川に面する北側斜面は急崖になっている。付近の古い地図によると、現在の車道の位置に道はなく、富岡地区と岩淵地区を結ぶ道路は、成木川に架かる両郡橋を渡って北岸の集落を東方へ向い、その先にある岩井堂橋を通して成木川の南岸にある岩淵地区に達していた。

岩井堂観音は、成木川に面する急崖の途中に突出する孤立丘に祀られ、富岡地区の住民にとっては勿論のこと、岩淵地区の人たちにとっても、秘境のような場所にあるため、霊場として崇められたのであろう。江戸時代後期（1820年頃）の『新編武蔵風土記稿』には、次のように紹介され、下図が添付されている。

「岩井堂 成木川の南岸にて巖上に建り、堂二間四方、観音を安ず、村持なり、岩の高さ五六丈、岩下に淵あり、平水深さ一丈二三尺ばかり、その図右の如し」



岩淵の岩井堂観音（『新編武蔵風土記稿』（国立公文書館所蔵）を筆写）

御堂へ向うには、県道から金比羅神社が祀られている小丘を越えて行くか、あるいは小丘の先にある階段を下りて行くかの二通りがある。今回は駐車場の脇にある階段を下り、クサリの手すりに護られた小道を進み、透き通るような水が流れている成木川に沿って、付近の風景を楽しみながら歩くことにする。眼下にみられる成木川の河床は青梅市の最低地点で、標高は約 130.5m である。

急崖から落ちないように、気を付けながら歩くこと数分間で、急崖の中腹にある御堂に着く。前庭から振り返って成木川付近を眺めると、日頃の世情を忘れさせてくれるような風景である。参拝は、5月中旬、あるいは晩秋の頃が最も良い。

御堂は 14 坪前後の敷地に建てられ、一辺が 2 間の宝塔造りである。『新編武蔵風土記稿』に記録された、江戸時代後期と同じである。建物は立派で、納め物の状況や清掃が行き届いていることなどから、信仰が厚い地域の人たちにとって、今でも護られているようである。御堂の脇にある岩壁の窪地には、頭部を欠いた 30 体ほどの石仏が並べられている。これも、何らかの“願掛け”を示しているのであろう。

一説によると、その昔、御堂内には観音様が祀られていたという。地域の住民に深く信仰され、参拝者が絶えなかったと伝えられる。ところが、ある時、大雨に見舞われて御堂と一緒に観音様も流されてしまった。観音様は成木川から入間川を経て荒川（隅田川）に流され、辿り着いたのが江戸下町・浅草の河岸で、観音様を拾い上げた漁師が浅草寺に奉納したという。

（但し、これに類似した話は、荒川上流の各所に伝えられているので、本当のところは不明です。）

御堂の前にある、急傾斜の石段を登ると、小丘の頂部には金比羅神社が祀られている。金比羅様は水の神様であることから、清らかな水が流れる成木川の岸边には、ふさわしい神社である。

（文責 角田清美）